

立教大学国際学術研究交流制度
在外研究
2022年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職名		氏名	
	異文化コミュニケーション学部・教授		石井正子	
研究課題	フィリピンにおける2022年総選挙の分析：統一バンサモロ正義党に注目して			
全研修期間	2022年3月20日～2022年9月17日(182日間)			
経費	年度	申請額	所属学部からの補助額	助成額
	2021年度	円	円	円
	2022年度	610,000円	0円	610,000円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学フィリピン文化研究所		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>2022年5月9日、フィリピンにおいて総選挙が行われた。この選挙に初めて候補者を出すのが統一バンサモロ正義党 (United Bangsamoro Justice Party : UBJP) である。UBJP は、モロイスラム解放戦線 (Moro Islamic Liberation Front, MILF) とフィリピン政府が2014年に包括的和平合意に署名したあと、MILF が結成した政党である。フィリピン南部では、同和平合意にもとづいて2019年にバンサモロ・ムスリム・ミンダナオ暫定自治政府 (以下、暫定自治政府) が設立された。正式な自治政府発足は2025年の総選挙後とされたが、UBJP は2022年の総選挙にも候補者を出した。</p> <p>本研究は、2022年フィリピン総選挙におけるUBJPの候補者、MILF関係者へのインタビュー、および選挙結果を分析することを通じ、武装組織であるMILFがどのように政党や市民社会組織に変容するのかを考察するものである。</p> <p>2022年5月の総選挙において、UBJPは、暫定自治政府を構成する5州120市・町およびコタバト州の6町63村において州知事1人、副州知事2人、州議会議員17人、下院議員2人、市長1人、町長44人、副町長39人、町議会議員307人の候補者を被選挙人として登録した。ただし、このうち2州 (南ラナオ州、タウィタウィ州) においては、まったく候補者を擁立しておらず、地域的な偏りが見られる。本研究においては、フィリピンにおける2022年総選挙に焦点をあてて、次の4項目を明らかにすることを目的に掲げた。以下、それぞれの項目について行った調査と明らかになったことを記す。</p> <p>1) MILF関係者が2022年の選挙においてどれほど国政、地方行政に統合されるのかを明らかにする。</p> <p>国政選挙・地方選挙におけるUBJPの選挙結果を分析した結果は、以下の通りであった。</p> <p><国政選挙></p> <p>下院議員：立候補者2名中、2名落選</p> <p><地方選挙></p> <p>州知事：立候補1名中、1名落選</p> <p>副州知事：立候補者2名中、2名落選</p> <p>市長 (コタバト市)：立候補1名中、1名当選</p> <p>町長：立候補者44名中、10名当選、34名落選</p> <p>その他、集計中</p>				

研究成果の概要 (つづき)

以上の選挙結果から UBJP の勝率は低く、課題を残すことになった。一方、暫定自治政府の議会所在地であるコタバト市で勝利したことは、UBJP にとって大きな意味をもった。前市長は暫定自治政府の設立に反対であり、過去 3 年間、暫定自治政府のプロジェクトが同市で実施されることを阻んできた。この障害がなくなることにより、UBJP はコタバト市を暫定自治政府設立の成功例として、2025 年の選挙にその成果を示したいと考えている。一方、下記に記すように UBJP から立候補しなくとも協力関係を築いた候補者も存在したことから、単純に選挙管理委員会が発表する選挙結果を集計するだけでは、今回の選挙の政治力学ダイナミズムを理解することができないことが分かった。

2) 候補者の選挙キャンペーンの内容から、UBJP が掲げる政治アジェンダを明らかにする。

フィリピンでは、候補者が頻繁に政党を変更することから、政党政治が機能していないと指摘される。これに対し、2025 年の自治政府議員の選挙においては、議席数 80 のうちの 32 議席が政党への得票数によって割り振られるため、政党の特色を有権者に訴えることが必要になる。UBJP は「モラル・ガバメント」をスローガンに腐敗のない選挙、政治を目指すことを訴えている。一方で、今回の選挙においては各候補者が選挙公約などを文書で作成することはほぼなく、有権者は政治アジェンダから UBJP を選ぶというより、村長や町長の意向をくみつつ、保護を得られそうなパトロンに投票するという従来の投票行為を踏襲していた。候補者による票の買収や投票行動の監視による脅しが有権者の投票行為に影響を及ぼすなか、UBJP がどれだけ政党政治を行って対抗することができるかについては、さらなる分析が必要である。

3) 選挙結果の分析により、地方有力政治家の権力基盤をどれほど切り崩すのか、崩さないのかを明らかにする。

4) なぜ、UBJP は 2 州において候補者を擁立しなかったのかを明らかにする。

UBJP は、地方有力政治家の権力基盤を切り崩すのではなく、暫定自治政府や UBJP に協力的な政治家と手を組み、彼らの一部を UBJP の候補者として取り込んでいた。また、候補者を擁立しなかった南ラナオ州においては、有力政治家が暫定自治政府の期間延長に賛成したことと引き換えに、UBJP は対抗馬を立てないという協約 (covenant) を結んでいたことが分かった。タウィタウィ州の有力政治家は一度は UBJP のメンバーになったが、大統領選において UBJP がレニ・ロブレド候補を正式に支持したのに対し、勝利が確実視されていたフェルディナンド・マルコス Jr. を支持することを決定し、最終的には Tawi-Tawi One Party (TOP) という地方政党から出馬したことが分かった。このような事情によりタウィタウィ州からは UBJP の候補者はいなかったが、同州の有力政治家と UBJP との関係は良好であることが確認できた。

キーワード (研究内容をよく表しているものを 5 項目で記入)

[フィリピン] [選挙] [武力紛争] [平和構築] [イスラム]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

学術雑誌『東南アジア研究』に寄稿する予定である。